

MONTHLY NEWS LETTER

三菱UFJモルガン・スタンレー証券

ビジネスと投資に役立つマンスリーニュースレター

10

October | 2026

高橋FPの社長が知りたいお金の話

ご存じですか？ ミニマムタックスの制度改正

2分で分かる注目レポート

「OECD Employment Outlook 2026」

マネークリップ

上昇する国内金利、見直したい国内債券

海外経営者列伝

ライアン・マキナニー

10月の主要経済カレンダー

米FOMC、金融政策決定会合、ECB理事会ほか

世界で愛されるUKIYO-E 案内

歌川国芳



写真:アフロ

中間選挙の秋、その先を見る

米国の政治は4年サイクル。この秋には中間選挙が行われる。
過去のアノマリーも参照しながら、米国株について少し考えてみたい。

11月、米国では中間選挙が行われる。大統領選挙ほどの注目を集めるイベントではないが、市場関係者にとっては見逃せない一大イベントである。大統領就任から2年が経過したタイミングで実施される中間選挙は、政権に対する有権者の評価が示される場でもある。まさにトランプ政権が「通知表」を受け取る時期と言えるだろう。中間選挙は2026年11月3日に実施される予定である。

過去の市場を振り返ると、中間選挙の前後には株価がやや伸び悩む傾向が見られる。選挙結果によって政策運営や議会勢力図が変化する可能性があり、投資家が慎重姿勢を

強めがちなためだろう。実際、中間選挙では現職大統領の所属政党が議席を減らす結果となるケースが多い。歴史的には大統領与党は平均して下院、上院ともに苦戦する傾向も見られる。

もっとも、興味深いことに選挙後は比較的良好なパフォーマンスを示すことも多い。不透明要因が一つ解消されることで、企業業績や景気そのものに再び注目が集まりやすくなるからかもしれない。もちろん、これは過去の経験則に基づくアノマリーに過ぎない。しかし、市場参加者の行動を理解する上では覚えておいて損のない傾向である。



この秋の主役もAI？

仮に今回も似たような展開になるのであれば、この秋は次の主役候補を探す良い機会になるかもしれない。

もっとも、現在の市場は過去の間選挙局面にはなかった特徴を抱えている。それがAIブームである。市場の関心は「AIが成長するかどうか」から、「AIの成長が現在の株価を正当化できるかどうか」へと移りつつある。

米国株市場の主役がAIであること自体に異論は少ないだろう。先日発表された決算では、エヌビディアが来年度の売上高成長率について約70%という極めて強気な見通しを示した。AI向けデータセンター投資の拡大は続いており、多くのテクノロジー企業でAIが業績に貢献していることも確認されている。

テクノロジーと反対に動く？ ヘルスケア

一方で、AI関連企業の株価の反応は必ずしも素直ではない。業績見通しは強気であるにもかかわらず、株価は高値圏で一進一退の動きを続けている。この先もAI向け投資が拡大を続けるのか、それとも成長ペースが鈍化していくのか。市場参加者の見方は分かれているところである。

その影響はほかのセクターにも及ぶ。代表的なのがヘルスケアである。本来であれば新薬開発や治験結果などの個別要因で評価されるべきセクターだが、足元ではテクノロジー株との対比で動く場面も目に付く。テクノロジー株が調整する局面ではヘルスケア株が買われ、逆にAI関連銘柄への期待が高まる局面では資金が流出する。肥満症治療薬の適応症拡大といった個別のニュースよりも、このようなマーケット全体の動きに左右される局面が少なくない。

＊

当面の市場を考える上で最大のテーマはAI相場の持続性であろう。その見方によって選ぶべき銘柄も大きく変わる。AIの恩恵を直接受ける企業を選ぶのか、あるいはその恩恵が周辺産業へ波及することを期待するのか。投資家ごとのシナリオが試される局面になりそうである。

ただし、どれほど大きなテーマが市場を動かしても、最終的に株価を決めるのは企業利益である。森を見ることも重要だが、木を見ることも同じくらい重要だ。中間選挙後の市場を見据えるのであれば、相場全体の流れと個々の企業の成長力、その両方を見極める姿勢が求められるのではないだろうか。当社ではAIをはじめとするテーマに関連したものから個別銘柄の解説まで、幅広い分野のレポートを提供している。活用してみてもはどうだろうか。

M

■ 図表1 米国大統領就任以降のS&P500の動き



S&P500の週次データを用いて作成。2025年1月20日の大統領就任日以降の最初の週を100としその後の推移を示している。平均はレーガンの2期目からバイデンまで

（出所）Bloombergのデータをもとに当社作成

■ 図表2 中間選挙では大統領の政党が苦戦する傾向

点線の枠内は大統領所属政党の結果

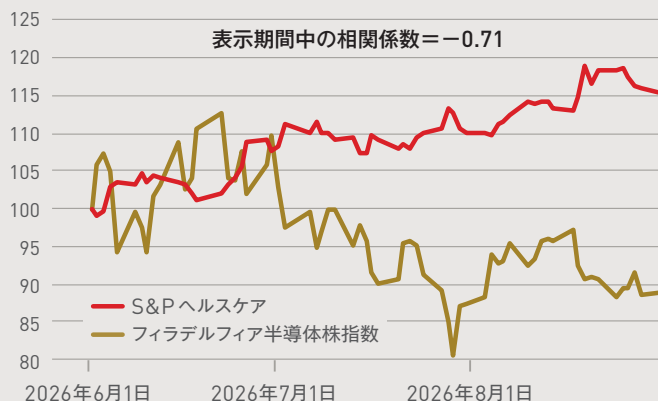
中間選挙年 大統領（所属政党）		上院 保有議席数		下院 保有議席数	
		民主	共和	民主	共和
2002年 ブッシュ 共和党	前回結果	50	50	212	221
	当回結果	48	51	205	229
2006年 ブッシュ 共和党	前回結果	44	55	202	232
	当回結果	49	49	233	202
2010年 オバマ 民主党	前回結果	57	41	257	178
	当回結果	51	47	193	242
2014年 オバマ 民主党	前回結果	53	45	201	234
	当回結果	44	54	188	247
2018年 トランプ 共和党	前回結果	47	51	194	241
	当回結果	45	53	235	199
2022年 バイデン 民主党	前回結果	48	50	222	212
	当回結果	47	49	213	222

※表中で「前回結果」として表示している議席数は、各当回の2年前の議会選挙結果の議席数であり、その選挙後の変動等は反映していない値。無所属はどちらの政党にもカウントしていない

（出所）米上院・下院のHPより当社作成

■ 図表3 半導体株指数とヘルスケア株指数の推移

（日次、2026年8月31日まで、開始時点=100）



（出所）Bloombergのデータをもとに当社作成